

冠婚葬祭の表書き一覧表

表書きを書く場合は、毛筆を用いて丁寧に楷書で書くのが正式です。最近ではサインペンや筆ペン、スタンプ、パソコンのプリンターなどが使われることもあります。

慶弔ともに濃い墨で、はっきりと書きましょう。慶事では慶びを祝って鮮やかに書き、弔事では深い悲しみを表す意味で濃くします。ただし、関西の一部の地方では、涙により墨も薄くなってしまいました、と言う気持ちで、薄墨で書く習慣もあります。

| 表書き | 用途 | 頻度 | 表書き | 用途 | 頻度 | 表書き | 用途 | 頻度 |
|-----|--|--------|-------|--|------------|------|---|----|
| 寿 | 結婚祝の表書き。また長寿などの慶事にも使われます。 | | 御餞別 | 転勤者・退職者・引越しをする人に、これまでのお付き合いの御礼。栄転の場合は「御祝」のほうが良いでしょう。 | | 後供 | 御霊前・御仏前に品物を供える際に使われます。 | |
| 御祝 | お祝い事全般に使われる表書きです。 | 良く使います | 御歳暮 | お世話になった方への暮れの贈り物に使用します。12月初めから25日頃まで。 | 年末 | 御香典 | 仏式の通夜・告別式で金品を供える時に使われる表書きです。主に関西方面。＝御香料 | |
| 内祝 | 結婚祝のお返しをはじめ、お祝い事やお見舞いのお返しに。また、自祝いの時に使われる表書きです。 | 良く使います | 御年賀 | 年始周りの品々に使用する表書きです。 | 年始 | 御香奠 | 仏式の通夜・告別式で金品を供える時に使われる表書きです。故人が目上の人の場合 | |
| 寸志 | 仲人以外の世話になる人への心づけ。また日常のちょっとした御礼、心づけ、お返しに。 | 良く使います | 御中元 | お世話になった方への夏の贈り物に使用します。7月初めから15日頃まで。 | 夏 | 御布施 | お寺や僧侶への一般的な謝礼に使われます。＝御経料、御回向料 | |
| 御礼 | 仲人への謝礼をはじめあらゆるお礼に。 | 良く使います | 暑中御見舞 | お世話になった方への夏の贈り物に使用します。立秋(8/7頃)まで。 | 夏 | 御膳料 | 精進落としの酒食の席に僧侶が出席を辞した時に遺族が渡します。 | |
| 礼祝 | 婚礼や上棟のお手伝いの人たちへの心づけ。また芸能関係の心づけ。 | | 残暑御見舞 | お世話になった方への夏の贈り物に使用します。立秋(8/7頃)を過ぎた場合。 | 夏 | 御足衣料 | ＝御車代 | |
| 儀祝 | 病氣全快のときのお見舞いのお返しに使用します。 | | 御 | お通夜に、金品を供えるときの表書きです。 | | 御戒名料 | 御法名料 | |
| 快祝 | 病氣・火事・災害の御見舞い一般に使われます。 | | 悔御 | 宗教に関係なく葬儀で金品を供える時に使われる表書きです。仏式以外はハスの模様の無い物が使われます。 | 葬儀では良く使います | 御玉串料 | 神式の告別式・法要の時の金包み。(＝御柵料・御神前)お宮参りの際の神社への御礼。神官への謝礼は「御礼」 | |
| 見舞 | 表彰・開店・開業などの贈り物に用いる表書きです。 | | 御霊前 | 葬儀まではまだ霊なので、火葬されてから御仏前となります。仏式の法要で、仏前に供えます。 | | お花料 | キリスト教教会へのお礼・献金の時に使われる表書きです。 | |
| 記念品 | 軽い気持ちでお礼や小物を贈る時に使用します。 | 良く使います | 御仏前 | 法要の時や仏壇にお供えするときに。目上の方には「佛」の字を使います。 | | 御花料 | キリスト教葬儀一般のご霊前に金品を供える時に使われます。(＝御ミサ料)神父・牧師への謝礼は「御礼」「謝礼」「寸志」 | |
| 粗品 | 小額ですみませんと言う、お粗末の気持ちを表します。 | | 御佛前 | | | | | |
| 松の葉 | | | 志 | 香典のお返しや法要の引き出物に使われる表書きです。＝忌明け | 良く使います | | | |

熨斗(のし)紙の起源と変遷

贈答の起源は、神道で神前への奉納品を包んだのが発祥です。

現在ののし紙の様式の元になったのは、中世の宮中の礼法に起源があります。当時は白い和紙に白い水引で慶弔ともに包まれていましたが、弔事は白い和紙のみだったのに対し、慶事は白い和紙の下に赤い和紙を合わせた二枚合わせで、結びは水引の端を、慶事は上に跳ね上げ、弔事は下へ垂らしました。

江戸時代には慶弔の用途分けは、**結ぶ水引の色**により区別するようになります。

明治維新以降は一般に広まるとともに簡素化が進み、大正時代に入ると印刷技術の発展で更に簡素化されました。そうして一枚の紙に水引や熨斗(のし)が印刷された現代のものに変化してきました。

水引の発達は礼儀作法の発達と深い関係にあるために、水引の結び方や使い方などに色々決まりがあります。地方ごとに習慣も違いますので、年配のご親戚や、自治会の年長者・経験者に確認して下さい。

水引の色

| | | |
|----|---------------------------|---------------|
| 慶事 | 一般的には紅白 | 向かって右が濃い色 右が赤 |
| | 格式を重んじたり、高額・高級品の贈答の場合には金銀 | 向かって右が濃い色 右が金 |
| 弔事 | 一般的には黒白 | 向かって右が濃い色 右が黒 |
| | 高額品の場合は銀一色 | |
| | 神式の御霊前に供える場合 | 向かって右が濃い色 右が黒 |

水引の本数

5本・7本など、奇数が基本。結婚祝いに限っては、10本で結びます。

水引の結び方

| 用途 | 結び方 | 意味 |
|------------------------|---------------------|----------------|
| 一生のうちに何度あっても嬉しい慶事 | 花結び(蝶結び) | 結びが解けやすく、また結べる |
| 結婚や快気祝など、何度も繰り返したくないもの | 結びきり(固結びの淡路結び・こま結び) | 結びが解けない |
| 病氣見舞い・災害見舞い 弔事 | | |

熨斗(のし)紙は、これらの略式として普通一般的な贈り物に広く使われます。

| | | |
|---------------|------------------------|---------------|
| 慶事(お祝いごと)用では | 婚礼関係に使うもの 婚礼以外のお祝い事 | 大きくこの4つに分かれます |
| 弔事(お悔やみごと)用では | 葬儀の時に使うもの 法要の時に使うもの | |

熨斗(のし)紙のかけ方

注)のし紙の左右の両端が裏面で交わる場合

お祝い事には慶事掛け 向かって右側に位置する熨斗紙の端を上重ねます

お悔やみ事には弔事掛け 向かって左側に位置する熨斗紙の端を上重ねます

中身の天地を間違えて掛けると、正しい位置から見て慶弔が逆になりますので、注意しましょう。

内のし・外のしの関係

包装紙で包んだ上から掛けるのが**外のし**です。
のし紙を掛けた上から包装紙で包むのが**内のし**です。

慶弔の儀礼を表すのがのし紙の本来の目的なので、外のしが本来の姿です。
ただ、郵送・宅配送したりする際に破損・汚損の恐れがあるので、内のしの方が理にかなっています。
この場合はそちらでも特に問題はありせん。